

目次

□ドイツ主義とスラブ主義との衝突に就て (言語上より見たる歐洲動亂の一面觀)	保科孝一
□日本建築の研究	文科二部三年 田中、小曾戸、平井、江見
□精神的教育	文科一部二年 渡邊カツ
□都市形式の研究	文科二部四年 A. B.
□シヨツベン、ハウエルの女子に關する論文ミラスキ ンのセサム、アノド、リリス中の「リリス、オ ブ、クワインス、ガードニス」を讀みて、それより 提供せられし若干の問題をばもう	千葉安良
□日本美術の研究に就いて	澤村專太郎
□文苑	
□歌(尾上八郎)	
□歌(中山八千代) (中村嘉津) (安吉ます) (梶原千代子)	みなみ
□川そひの村	みなみ
■雜報 □會計報告 □會員動靜等	
■研究 □讀方教授の效果測定法 □日光旅行地理的研究	(文科二部三年)

ドイツ主義とスラブ主義との衝突に就いて (講演)

(言語上より見たる歐洲動亂の一面觀)

保科孝一

今日は、ドイツ主義とスラブ主義との衝突に就いて(言語の方面より見たる歐洲動亂の一面觀)と云ふ題で御話する積である、實はこの題目も垣内君に作つて頂いたものであるが、私にはこんな立派な題目で御話することはなかなか容易なことでない、その上調査も不充分で、時々は脱線するかも知れぬ、しかし現在歐洲は大脱線をして居るから、私も少々脱線しても差支はあるまいと思ふ。

歐洲に於ける、スラブ主義とドイツ主義との衝突は、近頃はじまつたことでないが、しかし兩三年來は殊にこの兩主義の衝突が烈しくつて、遂に、今日の大動亂を醸すに至つたのである。

さて、千九百十一年の九月下旬、伊太利が突然トリポリ問題を提起して、十月一日には既に宣戰を布告した。初め伊太利の考では、容易くトリポリを奪ひ得るものと思つて居たが、實際戰爭をして見れば、なかなか思ふ様に行かずトリポリの後方に居る、アラビヤ人の勇敢な行動の爲めに、伊太利人は非常に苦しめられた。如何に堅甲利兵を以てしても、徒手空拳に等しいアラビヤ人と土耳其兵を一擧にして討伐することが出来な

いのみならず、却つて散々惱されて、十月から半年を経過しても容易に目的を達することが出来なかつた。